

多言語対応のコールセンター設置へ

製造・ソフト

ものづくり基礎講座

群馬産業技術センター

群馬産業技術センター 要不可欠な基礎的知識の「ものづくり」に必修得を目指す講座を6月

中に5日間(各3時間)に分けて開く。

講座は6月2日「金属

材料(鉄鋼・非鉄)の基礎」、9日「熱処理技術基

礎」、16日「熱処理技術

(応用)」、23日「接合技

術」、30日「故障解析方

法と実例。申込締切は各講座開催日の4日前ま

で。

費用は1日につき25

70円(県外企業は38

50円)。定員は先着順で各日20人。

医療通訳をコーディネート

台湾の大学と実証実験

C&T

群馬大学の瀧澤清美研究員はこのほど、医療向け多言語対応ソリューションに特化した会社、C&T(前橋市石倉町4-4-10、☎027-251-5555)を設立した。外国人や聴覚障がい者など言葉の不自由な人を守るためのソフトウ

エアの提供、医療通訳者の育成・雇用、多言語対応コールセンターの立ち上げなどを目的としている。瀧澤社長は、長年遠隔医療に力を注いできたほか、NPO法人地域診療情報連携協議会の理事長を務めるなど、ICT(情

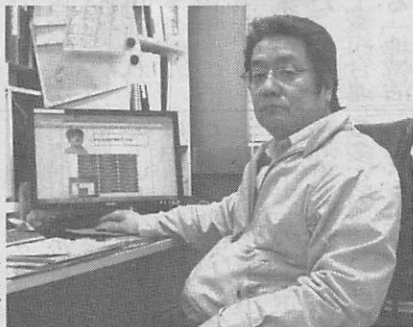
報通信技術)を利用したコミュニケーションツールの研究開発に従事。開発した製品の事業化に向け4月に同社を設立した。

トするもので、今夏にも台湾の大学と実証実験を開始する予定だ。東日本大震災被災地で約600人の通訳ボランティアの支援を受け、ネットワークが構築できたことが設置を目指すきっかけ。また、医療通訳者は資格を取得しても需要

は限られ、患者に同行しても拘束時間が長く、患者側の費用負担も大きいことも背景にある。瀧澤社長は「効率的な稼働と医療通訳者の雇用の確保につなげたい。20年の東京オリンピックに合わせ整備しておかなければならないサービスだと思っ」と話している。

また、昨年開発し、県の13年度ビジネスプランコンテストで優秀プランに選定された、スマートフォンを使って自動音声で緊急通報できる「緊急通報アプリ」も事業化し、10月の発売を予定している。そのほか病院内クロ

ーイズドネットワークサービス時代のリリースを予定している。医師と外国人などの患者が端末を通して画面と音声で問診を行えるシステムで、29言語に対応した医療用語がデータベース化され、セキュリティを考慮し、院内ネットワークで使用するもの。将来はこれらを連携させ、統合医療システムとする予定だ。



新会社を設立した群大の瀧澤研究員



スマート医療通訳の言語選択画面